

歴史民俗資料館特別展

## 古絵図に何が

### かかれていますか？

— 絵図にみる池田市域 — 第2回

今秋、歴史民俗資料館では、江戸時代の古絵図をテーマとする特別展を開催します。今回は池田市域の村のうち池田村を描いた絵図を紹介します。

### 在郷町池田を描いた絵図

池田市域の村のひとつ池田村は、戦国時代池田城を軸に町場が発達し、江戸時代にかけて周辺経済の中心、在郷町として発展した場所です。前回、慶長10年(1605)の撰津国絵図が作られた時点で、この地が「町」として広く知られていたことにふれました。人、モノが行き交い、月に12回の市が立つほどの繁栄ぶり、その様子は俗謡で歌われるほどでした。

江戸時代の池田村の絵図は複数あり、そのうち、3m四方に近い大きな絵図が、つぎの3点確認されています。

### 柳沢吉保に提出した絵図

一番古いものは、元禄10年(1697)のもので、「元禄十年撰州豊島郡池田村絵図」といい、平成15年(2003)に池田市指定文化財となりました。

池田村は、元禄6年(1693)〜宝永2年(1705)の間、5代將軍徳川綱吉の側用人として知られる柳沢吉保の領地になりました。この絵図は裏書から、柳沢に提出した控えであることが分かり、ここにかかれている内容は、当時の情報をかなり正確に反映したものだといえます。四方に方位が記され、北には五月山、西には猪名川が配されています。寺社の堂舎や社などは鳥瞰的に描かれています。屋敷地は短冊状に割り付けられ、それぞれ間口や奥行の寸法、酒屋、問屋、糸引、荒物屋などの職名、名前が記入されています。これらの内容から、池田村の町場としての具体的な姿を知ることができます。

### 代官に提出した絵図とその写し

つぎに、「延享三年撰州豊島郡池田村絵図」(1746)という、先の元禄10年の絵図から約50年経ったところに作成

された絵図があります。こちらは今まで展示される機会がなく、今回が初めてです。

代官の奥谷半四郎の命令を受けて池田村の村役人が提出した絵図の下絵で、山は簡略化した表現になっており、寺社についても区画のみ記すだけで建物はかかれています。

元禄10年の絵図と同様、屋敷地が短冊状に割り付けられ、面積、年貢高、名前が記されていますが、職名は記されていません。

この延享3年の絵図は、文政12年(1829)に写しが作られ、さらにそれを安政4年(1857)に写した絵図を、

歴史民俗資料館が所蔵しています。大型のため当館で公開することは少ないのですが、今回の特別展で初めて延享3年の絵図とともに展示することになり、両者を比較できる機会となっております。

今回の特別展では入れ替えを行いながら、この3点全てを展示します。普段公開されていない貴重な絵図が見られる機会ですので、ぜひご覧ください。今回は、池田村以外の村を描いた絵図に注目して紹介します。

◆問い合わせは歴史民俗資料館  
☎751・3019



▲「延享三年撰州豊島郡池田村絵図(安政四年写し)」現在の栄本町、大和町あたり(池田市立歴史民俗資料館所蔵)